

平成 26 年度第 6 回文系チャレンジ講座を実施しました

平成 26 年度第 6 回文系チャレンジ講座が、平成 26 年 12 月 17 日、「グローバル化とナショナリズム」をテーマとして、本学経済学部教授の高山英男先生^{こうやまひでお}によって行われました。

遠隔配信された大分雄城台^{おぎのだい}・大分鶴崎・日田・大分商業・三重総合・高田・臼杵の 7 校合計 165 名の高校生が受講しました。今回は、大分商業高校視聴覚教室から授業配信を行いました。

高山先生は、授業に先立って、「政治学や国際政治学は、昔から命がけの危険な学問です。それは政治そのものが権力闘争だからです。現在は企業の世界的活動などグローバル化が進行している中で、世界中でナショナリズムが猛威を振るっています。この講義では、いくつかのナショナリズムの姿を見ながら、どうして今ナショナリズムが強まっているのか、どうしたら対立を防げるのかについて、皆さんと共に考えます。」と、優しい語り口で国際政治学の世界に導いていただきました。

高山先生は、「国際関係」という学問は、第一次世界大戦後、二度と悲惨な戦争を起こさないようにするためにはどのようにすればよいかを考えるために誕生した学問であることを理解していくことから授業を始めました。しかし、また戦争は起こり、第二次世界大戦に突入していきます。高山先生は、UN(連合国)、枢軸国、民主主義、先発帝国主義、後発帝国主義などのキーワードを提示し、受講生に質問をしながら第二次世界大戦の構図を図示していきました。

次に、第二次世界大戦後の世界をパックス・アメリカナ(Pax Americana アメリカの存在により世界平和が維持されている状態)の視点で、冷戦体制構造、国際経済体制、第三世界の存在、冷戦の終結を解説しました。冷戦後の世界をパックス・アメリカナその 2 としてアメリカ極覇権体制の構図やそのルール、国際的レジームとして国際通貨体制、自由貿易体制、核不拡散体制などのアメリカとの関係、最後にアメリカ後の世界としてアメリカの相対的衰退、中国・ロシアなどの台頭など国際的な動きに迫っていきました。

このような戦後の世界の動き、いわゆる現代史の中で生きる私たち日本はどのように対処するべきなのかについて、今までのままでよいのか、もっと発言力を増して行くべきか、近隣諸国との協調かなど項目を挙げて受講生に問いかけました。難しい問題だけに受講生からは明解な答えは少なかったですが、「世界の中で今を生きる」ことについて、考えなければならないことを改めて突きつけられた 1 時間でした。高山先生は、国際関係は難しいが面白い分野で、理想と現実のせめぎ合いであると結びました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(85%)「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(95%)、「授業内容はわかりやすかった」(77%)、「板書(スライド)は適切だった」(75%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」(95%)と高い評価結果がでました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」(60%)、「映像はよく見えた」(77%)という結果がでました。受講生の具体的な声として、「配付された資料がわかりやすく、メモが取りやすかった」「高校で学習した内容を深く詳細に理解することができた」「現代史を世界の視点で理解できた」「世界平和とアメリカの関わり、国家間のつながりの難しさが学べた」など、多くの感想が寄せられました。

